

自己評価報告書(最終報告)

報告者

教員養成特別コース／葛上
秀文

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが（平成24年8月28日）、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

高度専門職業人としての教員を養成するには、実践力を高めることと学び続けられる力量をはぐむことが重要である。そのため、①授業内容として、教職大学院においては、ロールプレイなどを用いた実践的な授業を設定しており、また、その力量の目安となるスタンダードをコースで設定し、確認を行う、②授業方法については、研究者教員と実務家教員がT.Tを行い、理論的な立場と実践的な立場の融合をはかる、③成績評価については、教職大学院で設定した到達目標、及び、コースで設定した授業力及び生徒指導力スタンダードをもとに、学生の実践力の評価をはかり、その改善を図る。

2. 点検・評価

上記目標に沿い、授業内容に関しては、実践的な授業を行い、後期授業評価においても高い評価を得た。授業方法に関して、従来からのT.Tを実践し、院生の指導にあたりるとともに、学部授業においても、小グループでの話し合い活動などを積極的に取り入れた。成績評価に関しては、観点別評価を取り入れるなど、成績の厳格化を図った。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

大学院の就職率向上をめざすため、コース教員と協力し、採用試験対策のさらなる充実を図る。具体的には、筆記試験対策として、週2コマの時間を設定し、学生の受験する県別の対応を図る。また、小論文対策、面接対策も週1時間設定する。

2. 点検・評価

コース教員と協力し、採用試験対策を実施し、大学院2年時勢は、11名中6名合格と、過去最高となった。10月以降も、採用試験に突破できなかったもの、及び大学院1年次生を対象に、月2回程度、採用試験対策を実施した。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

キャリア教育に関する論文を紀要などにまとめる。また、鳴門市の学校評価に関する論文もまとめる。

2. 点検・評価

大学紀要に論文をまとめた。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

学部教務委員会の委員として、大学運営にあたるとともに、定員確保に向けて、大学訪問を積極的に行う。

2. 点検・評価

学部教務委員会委員として役割を果たすとともに、大学訪問も3大学訪問した。後期も大学訪問を2校行い、定員確保に努めた。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

鳴門市、板野郡5町との学校評価に関する支援を今年度も実施するとともに、鳴門中学校の人権発表に関するアドバイザーとして、1年間関わる。

2. 点検・評価

学校評価支援を例年通り行っているとともに、鳴門中学、神宅小学校などにおいても、アドバイザー制度などを活用し、指導を行った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

教職大学院の定員確保と採用率の向上に日々努力しているが、コースの努力だけでいかんともしがたい部分もある。これまで以上に大学全体の支援を強く求める。